

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ西ノ京教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数) 33人
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、理学療法士、児童指導員、看護師が在籍することで多方面から子どもたちを捉え、アセスメントし支援に活かすことができている。	日々の支援の振り返りを行い評価・支援の修正を行っている、行動だけに目を向けるのではなく背景に目を向けることが職員の中で習慣化されている、	職員それぞれが更に自己研鑽に励み支援に活かす、利用児それぞれにカンファレンスの場を定期的に設定する
2	事業所の活動プログラムが固定化されないように工夫している。	季節を感じる・非日常を体験できるプログラムを立案している、利用児たちへプログラムの希望を募り反映、外食やクッキングを取り入れ保護者の昼食準備の負担を軽減している、	活動の範囲を広げる内容を引き続き検討する、保護者参加型プログラムの検討、新年度の曜日メンバーを見つづプログラム内容を検討する
3	日々の支援記録の充実、活動内容をSNS等で発信している。	日々のリーダーが支援記録を丁寧に記載している、記録時間の確保、SNSでの発信については利用児の受け入れがない時間帯に積極的に内容の検討発信を行っている、	支援記録に係る時間の確保、SNSでの情報発信は保護者だけでなく地域の皆さんにも事業所の活動を知っていただくツールとしてより効果的な活用方法・更新頻度について検討する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこともと活動する機会がない。	日々の業務が優先されている、	まずは利用児が通っている学校や併設されている放課後児童クラブとの連携方法を模索する、地域の子ども参加型イベントなども検討する
2	小学校低学年の利用児が多く、学年が上がってくるとプログラム内容等に物足りなさを感じることもある。	教室利用児の大半を低学年が占めることでプログラム内容がそちらにフォーカスされている、下校時間との兼ね合いもあり個別でプログラム時間を設定することが難しい、	プログラムの目標設定を2部構成にするなど利用児のニーズに合わせた活動ができるよう務める、学年に応じたの受け入れ支援体制の調整を行う
3			